

略年表

年代	政治・経済	宗教・文化
先土器時代 縄文時代		橿原に縄文文化が展開 坪井・一にも縄文文化が展開
弥生時代	中曾司・四分などで農耕を行なう 忌部山上にムラができる	
三世紀	スイセン塚古墳	
四世紀	新沢千塚古墳群（七世紀） ミサンザイ古墳	
五世紀	榊山古墳	仏教が正式に伝わる（五五二年説あり）
五三八 五五〇	このころ、見瀬丸山古墳など大型前方後円墳出現 このころ、沼山古墳・菖蒲池古できる	
五五六	高市郡に韓人大身狭・高麗人小身狭の屯倉をおく	
五八五 五八七	崇仏派と反対派とが争い、崇仏派の勝利に終る	蘇我馬子、塔を大野丘の北に立てる
五九三 推古一	推古天皇、飛鳥豊浦に皇宮を営む。これ以後、宮都が飛鳥地方に集中する	

六三三	推古二二	一一、難波より京に至る道(横大路)を開く。 このころ、大和の古道が設定される。
六二〇	推古二八	〃六三〇ころ、切り石積み石室が誕生(岩屋山古墳・小谷古墳)
六三六	舒明八	六、岡本宮焼け、田中宮に移る
六三九	舒明一一	七、百済川畔に大宮・大寺を造り始める
六四〇	舒明一二	四、天皇、厩坂宮に入る 一〇、天皇、百済宮に移る
六四二	皇極一	九、百済大寺造宮のため、近江と越の丁を徴発
六四四	皇極三	一一、蘇我本宗家、甘檮岡に邸宅を造る
六四五	皇極四	六、蘇我本宗家滅亡事件(大化改新)
六四六	大化二	一、大化改新の詔下る
六五六	斉明二	香山・石上山間に渠を掘る
六六三	天智二	八、日本、白村江の戦いに敗れる
六六七	天智六	二、斉明天皇を越智岡上陵に葬る 三、近江大津に遷都
六七二	天武一	六、壬申の乱おこる この冬、飛鳥浄御原宮に遷都
六七三	天武二	
六七七	天武六	
六八〇	天武九	
六八四	天武一三	このころ、藤原京の計画を練る

一一、百済川畔に九重塔が建つ

- 一一、百済大寺を高市に移す(高市大寺)
- 九、高市大寺を大官大寺と改称
- 一一、薬師寺を建立

六八七	持統 一	桧隈大内陵造宮
六八八	持統 二	一〇、桧隈大内陵に天武天皇を葬る
六九〇	持統 四	一〇、高市皇子、藤原宮地を視察
六九二	持統 六	五、藤原宮の地鎮祭を行なう
六九四	持統 八	一二、飛鳥を去り、藤原京に遷る
六九七	文武 一	
六九八	文武 二	
七〇一	大宝 一	八、大宝律令完成
七〇二	大宝 二	六、藤原京から遣唐使を派遣する
七〇三	大宝 三	この年、東西市が立つ
七一〇	和銅 三	三、平城京に遷都
七一六	靈龜 二	
七一八	養老 二	
七四三	天平一五	五、壺田永世私財法を公布
七五九	天平宝字三	
七八四	延暦 三	長岡京に遷都
七九四	延暦 一三	一〇、平安京に遷る
七九九	延暦 一八	六、大和国司が祭祀を慎まぬことを戒める
八〇五	延暦 二四	一二、大和三山の伐採を制限
八二〇	弘仁 一一	二、高市郡に泉池を築く
八二三	弘仁 一四	一、大和国、益田池築造料として新銭一〇〇貫を賜う

- 七、薬師寺で仏像開眼会を行なう
 一〇、薬師寺の堂塔ほぼ完成
 六、僧尼令を大安寺（大官大寺）で説く
 五、大安寺を平城左京に移建
 この年、薬師寺を平城京に移転
 このころ『万葉集』できる

八二五	天長	二
九〇〇	昌泰	三
九一五	延喜	一五
九四二	天慶	五
九七七	貞元	二
一〇〇〇	長保	二
一〇〇六	寛弘	三
一〇五〇	永承	五
一〇七〇	延久	二
一〇七六	承保	三
一〇八五	応徳	二
一一〇〇	正治	二
一一二〇	正安	四
一三四五	康永	四
一三八六	至徳	三

一二、大和守甘南備扶持が赴任しないため解任

五、興福寺僧、大和国司の館に乱入

六、大和国司、興福寺僧が国内の田畑を損なうことを訴える

七、興福寺衆徒、大和守源頼親の解任を訴える

このころ、源頼親、負田を私領化する

源頼親、興福寺の僧兵と戦い、これを殺傷したため、興福寺の強訴によって土佐に流される

このころ、興福寺、大和国内に膨大な荘田畠を所有

源頼房が子女に私領分与したため紛争となる

五、興福寺僧徒が十市郡で乱行、民家を焼く

三、南都学侶・衆徒が蜂起、十市に向かう

九、益田池の碑できる (空海撰)

このころ、十市正覚院地藏菩薩立像できる (本市現存最古の遺品)

七、久米寺東院・大塔が焼失

この年、藤原国光、国源寺を建立

このころ、八木国分寺十一面観音立像できる

このころ、小綱正蓮寺大日如来坐像できる

九、大久保大窪寺の聖徳太子立像できる
人麿神社本殿を建立

(元中三)

興福寺領高市郡「今井庄」の文献初出

一四〇五 応永一二 矢木座、符坂座と胡麻売買をめぐる衝突、協定を結ぶ

一四〇六 応永二三 二、幕府、畠山満家らに十市遠重を討たせる

一四一一 応永一八 一一、八木の土蔵が興福寺から処罰される

一四二九 永享一 七、越智・箸尾氏と十市・筒井氏らの合戦となる

一四三七 永享九 五、大和国大合戦となる

一四四三 嘉吉三

一四五六 康正二 一二、赤松氏の遺臣、後花園天皇の綸旨を得て越智家栄の手引きで神璽奪回のため宇智郡に集結

一四六七 応仁一 五、大和の衆徒・国民ら二分、筒井党は山名宗全(西軍)方に、越智党・古市氏らは細川勝元(東軍)方につく

一四六九 文明一 一二、矢木仲買衆と符坂本座衆が胡麻売買を争う

一四七一 文明三 閏八、十市遠清、楊本範満父子を攻め殺す

一四七四 文明六 一一、十市遠相、東金堂領に私反銭をかける

一四七五 文明七 五、十市・筒井・布施ら(東軍)と越智・古市・万歳ら(西軍)が戦い東軍敗退

一四七八 文明一〇

一四七九 文明一一 閏九、一二、筒井・成身院・十市ら、勢力の回復をはかり古市・越智らと戦い敗退

瑞花院本堂上棟

正蓮寺大日堂建立

一四八一	文明一三	七、筒井・成身院・十市ら帰国、すぐ古市・越智らに撃退される
一四八二	文明一四	八、越智氏、十市郷を焼く 一〇、十市勢、八木郷を焼く
一四八三	文明一五	九、畠山義就が大和に進攻し、筒井・成身院・十市ら山城まで敗退
一四八四	文明一七	一二、古市・越智ら山城から帰陣
一四八六	文明一八	一一、越智家栄、八木市を設ける
一四九一	延徳三	一二、十市遠相死去
一四九三	明応二	四、十市氏、越智勢と合戦。八木市双方から焼討ちにあう
一四九四	明応三	五、越智家栄、一国平均三〇〇文反銭をかけ、ついで衆徒・国民を率いて幕府に出仕
一四九五	明応四	一〇、越智、一乗院門跡領に反銭をかける
一四九七	明応六	一〇、十市遠清、吉野二十河で死去 一一、畠山尚順入国し、越智氏吉野に逃げる
一五〇〇	明応九	一二、十市被官・馬借を率い、長谷寺に徳政を行なわせる
一五〇五	永正二	二、越智家栄死去
一五一五	永正二二	一、筒井・越智両党の和議成立し、大和大名衆の盟約なる
一五二〇	永正一七	一〇、越智・古市氏、大和大名衆の盟約を破り、筒井氏を攻める 八、筒井・越智・古市氏ら和睦

一五三二	天文一	七、一向一揆、高取城に越智氏を攻める
一五三三	天文二	越智氏、今井・四条付近の門徒の小屋を破却
一五三六	天文五	
一五四〇	天文九	九、幕府の仲裁で筒井順昭、十市遠忠の和議成立
一五四五	天文一四	三、十市遠忠死去し、十市氏、筒井党の傘下に入る
一五四六	天文一五	一〇、筒井順昭、越智家頼を貝吹山城に攻撃、この日和睦
一五六二	永禄五	五、ルイス・ダルメイダ、十市城に滞在
一五七〇	元亀一	七、松永久秀、越智氏を貝吹城に攻める。筒井順慶、十市城を攻める
一五七三	天正一	七、織田信長、大和国に出兵
一五七四	天正二	今井郷民、織田信長に抗戦
一五七五	天正三	今井郷降伏
一五八二	天正一〇	今井兵部羈寿、今井に復帰
一五八三	天正一一	
一五八六	天正一四	十市郷、侍衆払いを命ぜられる
一五九〇	天正一八	今井兵部、私領三〇〇石を豊臣秀吉に返上
一五九四	文禄三	このころ、豊臣秀吉、今井兵部を摂津国關郡我孫子村などの代官とする。秀吉、吉野の花見の途次、今井に立寄る
一五九五	文禄四	秀吉、大和国檢地を開始。「今井村」は六町を数え、寺内町的性格を示す

七、十市遠忠、百五十番歌合をつくる
このころ、今井御坊創建

今井御坊復興

一五九七	慶長二	徳川家康、今井に禁制を出し、保護を約す
一六〇〇	慶長五	豊臣秀頼、今井兵部に所領を安堵
一六〇一	慶長六	今井兵部、領地を徳川氏に差上げ、徳川氏の支配に入る
一六〇四	慶長九	
一六一三	慶長一八	
一六一五	元和一	大坂夏の陣、大坂方、今井を攻撃、兵部らこれを撃滅
一六一九	元和五	今井村、郡山藩下に入り、ほぼ「町」と同格の振舞いを許される
一六二一	元和七	今井貞綱、今井の支配を命ぜられ、今西与次兵衛・尾崎源兵衛が惣年寄に指命される
一六三四	寛永一一	今井札の発行を許される
一六四三	寛永二〇	このころ、八木村に傾城できる
一六四九	慶安二	三、幕府、田畑永代売買を禁止
一六五〇	慶安三	二、幕府、郷村に勸農条令を出す。慶安御触書できる
一六五五	明暦一	小綱村に傾城できる
一六六二	寛文二	
一六七三	延宝一	村高二割半増しとなる
一六七九	延宝七	今井氏の今井町支配終り、寺内町の特別扱いを解かれ「郷中並」となる
一六八二	天和二	木原村、耳無山の用益について山ノ坊村を訴

称念寺本堂再建

旧常福寺観音堂建立

このころ、入鹿神社本殿建立

今西家主屋建設（「ハツ棟造り」）

豊田家上棟

える(耳無山論)

一六八八 貞享 五

一六九七 元禄二〇

一七〇二 元禄一五

一七〇三 元禄一六

一七〇九 宝永 六

一七一〇 宝永 七

一七一 宝永 八

一七三六 享保二一

一七四一 寛保 一

一七五二 宝曆 二

一七五三 宝曆 三

一七五五 宝曆 五

一七六四 明和 一

幕府、山陵調査を行なう

一二、梅川・忠兵衛事件

二、新口村忠兵衛処刑される

大和の天領五万石、芝村藩預りとなる

五、雲梯・曲川両村の水論(宝曆五年三月まで)

飛鳥川洪水、上品寺村など被害をうける。十市郡膳夫・内膳・木原・葛本・常盤・石原田・下八釣・吉備九カ村、芝村藩の重税について出訴、牢死者三八人を出す(芝村騒動)

今井・下市等の庄屋・豪商と、芝村藩役人との間に収賄事件がおきる。同年、今井は高取藩預りとなる

八、芝村騒動の強訴者の罪科を決定

今井町に「町内掟書」できる

四、松尾芭蕉『笈の小文』の旅

このころ、音村家上棟

このころ、野宮定基、紀行『松曆』に神武陵の荒廢を記す

八、耳無山天神が焼亡

吉川家住宅建立

三、近松門左衛門作、浄瑠璃『冥途の飛脚』が大坂竹本座で初演

『大和志』に「飯ずし」が今井名物としてあげられる

このころ、旧米谷家住宅・河合家住宅建立

一七六七	明和 四	雲梯・曲川の水論再燃
一七六八	明和 五	神保氏領の百姓強訴
一七七一	明和 八	
一七七二	明和 九	
一七八五	天明 五	上品寺・新口・豊田の三カ村、地黄村と水論
一七八七	天明 七	五、今井村など大和一七カ所で打毀しがおこる
一七八九	寛政 一	豊田村、地黄村と水論
一七九四	寛政 六	大和の天領、高取藩預りとなる
一七九六	寛政 八	
一七九九	寛政 一一	大旱魃
一八二三	文政 六	五、大旱魃
一八三〇	文政 一三	
一八三〇	天保 一	
一八三六	天保 七	
一八三七	天保 八	このころから木綿業(機屋・紺屋)盛んとなる
一八四〇	天保 一一	五、大雨。八木・四分村の家四〇軒余流出
一八四六	弘化 三	

このころ、中橋家住宅・上田家住宅建立
 九、八木太神宮石灯笼造立
 三、本居宣長、大和三山付近の社寺・古跡を一巡(菅笠日記)

このころ、森村家住宅建立
 歌舞伎『恋飛脚大和往来』大坂角座で初演
 このころ、旧上田家住宅・高木家住宅建立

文政のおかげまいり
 『恋飛脚大和往来』浄瑠璃に逆輸入
 谷三山、私塾興讓館を開く

このころ、旧織田屋形(現榎原神宮文華殿)で
 牟佐坐神社百人一首絵馬できる

吉田松陰、谷三山を訪ねる

旧京都御所内侍所（榎原神宮本殿）、同 神嘉殿（同御饗殿）でさる

一二、谷三山没（六六）

三、神仏混淆を禁止（排仏毀釈）

一二、太陽暦を採用

一八五三 嘉永 六

一八五五 安政 二

一八五九 安政 六

一八六七 慶応 三

一八六八 慶応 四

一八六八 明治 一

一八六九 明治 二

一八七一 明治 四

八、解放令布告

一一、大和一国を管轄する奈良県が成立（第一次奈良県）

一二、八木郵便局御用取扱所開設

五、奈良県に大区小区制を実施

四、奈良県を廃し、堺県に合併

二、明治天皇、神武天皇陵に参拝、称念寺を
行在所とする

二、堺県廃止され、大阪府に合併

七、高市郡近傍の村民、官林払下げをめぐり
一三六人拘引

一一、奈良県再設置

町村制施行。八木・今井両町、金橋・天満・
新沢・真菅・鴨公・白檀・香久山・耳成・
多・平野の諸村が誕生

一八八九 明治二二

一八八七 明治二〇

一八八三 明治一六

一八八一 明治一四

一八七六 明治 九

一八七二 明治 五

一八九〇	明治二三	三、橿原神宮が創設され、官幣大社となる	五、大阪鉄道、高田・桜井間開通
一八九三	明治二六		四、奈良県尋常中学校 畝傍分校（県立畝傍高等学校の前身）発足
一八九四	明治二七	二、八木銀行の創設	一、県立八木測候所開設（一九三九年国に移管）
一八九六	明治二九	三、畝傍銀行の創設	七、橿原神宮本殿重要文化財指定
一八九七	明治三〇		高市郡教育博物館設置
一九〇二	明治三五		二、橿原神宮御饌殿重要文化財指定
一九〇三	明治三六		二、瑞花院本堂重要文化財指定
一九〇四	明治三七	六、橿原神宮で戦勝祈願（日露戦争）臨時大祭	
一九〇五	明治三八		
一九〇七	明治四〇	六、洪水。飛鳥川・曾我川流域の八木・曾我に被害	
一九一一	明治四四	二、桑原橿原神宮宮司、神宮の規模拡張を上申	
一九一二	大正一		
一九一四	大正三	一、八木町実業協会、営業税廃止運動	三、八木・高取間バス事業開始
一九一五	大正四	一一、大正天皇、即位式後に畝傍行幸	この年、吉田宇太郎、新沢・一遺跡を調査
一九一八	大正七	九、台風による洪水、飛鳥川堤防決潰し、今井・八木両町浸水	八、正蓮寺木造大日如来坐像重要文化財指定
一九一九	大正八	九、洞村の移転決定（大正九年移転完了）	三、大阪電気軌道（大軌）、西大寺・橿原神宮前間開業
一九二三	大正一二		一一、吉野鉄道、橿原神宮前・吉野口間開業

一九二四	大正二三	金橋村で小作争議
一九二五	大正二四	
一九二六	昭和 一	高市郡役所廢止
一九二七	昭和 二	
一九二八	昭和 三	二、白檜村、町制を施行し、畝傍町と改称
一九二九	昭和 四	
一九三〇	昭和 五	七、豪雨。飛鳥川沿いに被害でる
一九三三	昭和 八	一〇、檜原神宮で「神武天皇御東遷記念二千六百年祭」おこなわれる
一九三四	昭和 九	檜原市設立運動おこる
一九三五	昭和一〇	一、紀元二千六百年記念事業具期成会結成
一九三六	昭和一一	河内・大和の強震（二上山地震）。建物・道路に被害
一九三七	昭和一二	三、一戸県知事、檜原神宮外苑運動場設置を要望
一九三八	昭和一三	二、建国祭、檜原神宮参拝者約一〇万人 畝傍（六月）、檜原地区（十二月）土地区画整理事業着工
一九三九	昭和一四	六、檜原神宮運動場、外苑道路地均し作業のため、建国奉仕隊結成 一一、檜原神宮本殿を遷座し、建国奉仕隊を
		一一、吉野鉄道、檜原神宮前・畝傍間開業
		三、大軌鉄道、高田・八木間開業
		八、国分寺木造十一面観音菩薩立像重要文化財指定
		四、菖蒲池古墳史跡指定
		七、大軌鉄道、大阪・八木間電化開通
		この年、吉野鉄道、檜原神宮前・吉野間全通
		一、大軌鉄道、八木・桜井間開業
		一二、日本古文化研究所、藤原宮跡を調査
		九、県立檜原考古学研究所発足
		九、末永雅雄ら、檜原遺跡を発掘

一九四〇	昭和一五	解散（五〇七日間に全国より一二二万人以上奉仕） 一、橿原神宮の三カ日の参拝者、前年の二〇倍、一二五万人に達する 二、橿原神宮外苑橿原道場（建国会館・運動場・大和国史館など）の創立式を実施 六、天皇、橿原神宮・畝傍御陵へ行幸 一一、橿原神宮はじめ各地で紀元二千六百年奉祝式典
一九四二	昭和一七	
一九四三	昭和一八	
一九四四	昭和一九	
一九四五	昭和二〇	この年たびたび大阪空襲。醍醐南部にも被害
一九四七	昭和二二	
一九四九	昭和二四	六、十市郡耳成村内膳、高市郡八木町に編入
一九五〇	昭和二五	
一九五一	昭和二六	一一、天皇地方行幸
一九五二	昭和二七	
一九五三	昭和二八	四、今井町塵芥焼却炉設置
		三、大軌鉄道と参宮急行を合併して関西急行と改称 七、橿原文庫（現県立橿原図書館）開館 五、浄国寺石燈籠重要美術品指定 六、正蓮寺大日堂重要文化財指定 七、県下乗合自動車会社を合併し、奈良自動車会社奈良交通株式会社と改称 六、関西急行と南海鉄道合併、近畿日本鉄道発足 四、県立医科専門学校（県立医科大学の前身）開設 四、畝傍・八木・耳成・鴨公・今井・真菅・金橋・菅原の各中学校創立 三、金橋・菅原中学校を廃し、光陽中学校創立 八、今井・真菅中学校を廃し、大成中学校創立 三、本薬師寺跡・藤原宮跡、国の特別史跡に指定

一九五四 昭和二九
一九五五 昭和三〇

一九五六 昭和三一

二、磯城郡耳成村・高市郡畝傍町・鴨公村・八木町・今井町・真菅村の六カ町村が合併して檀原市成立

三、好川三郎市長就任

七、高市郡金橋村および新沢村を編入

七、吉野川分水開始

九、市章制定

桜井市大字池尻・南山・戒外・南浦・木之本・下八釣・膳夫・出合および出垣内を編入

一〇、字を廃し、町を新設

一九五七 昭和三二

二、第一回市議会議員選挙実施

三、市塵芥焼却場新設

七、大和高田市大字箸喰および磯城郡田原本町大字飯高・大垣・豊田・西新堂・新口を編入

一九五八 昭和三三

一九五九 昭和三四

一、給食開始（晩成小学校）
一一、第一回市民だより発刊

一九六〇 昭和三五

三、日高山グラウンド設置

五、今井幼稚園設置

一九五七年、東京大学により今井町町家調査

一一、奈良国立文化財研究所、一遺跡を発掘

四、耳成中学校を廃し八木中学校に統合

六、香久山幼稚園創立

六、今西家重要文化財指定

九、『今井町史』刊行

一二、末永雅雄ら、新沢古墳群一八五・一八一・一八七号墳を調査

四、鴨公中学校を廃し、八木中学校に統合

四、鴨公幼稚園創立

九、光陽中学校、組合立から市立に

九、新沢小学校創立

一九六一	昭和三六	四、国民健康保険事業全市域に実施 一、市庁舎落成
一九六二	昭和三七	三、市消防署設置 九、全国に先がけて小学生に教科書無償配布 一一、建国文化都市宣言
一九六三	昭和三八	四、中学生にも教科書無償配布
一九六五	昭和四〇	四、市内全域上水道給水開始 九、消防署救急業務実施
一九六六	昭和四一	二、宮崎市と姉妹都市盟約
一九六七	昭和四二	五、市民グラウンド設置
一九六八	昭和四三	六、大久保町・飛驒町両隣保館設置
一九六九	昭和四四	七、飛驒町隣保館移転新築 八、榎原ニュータウンの工事開始
一九七〇	昭和四五	四、近鉄八木駅北広場を整備 四、ごみ処理場完成 四、消防庁舎落成

益田池の木製樋管出土	五、『榎原市史』刊行
四、新沢幼稚園創立	七、八、榎原考古学研究所、末永雅雄ら、新沢千塚古墳群一二六号墳などを調査
四、耳成幼稚園創立（各小学校に幼稚園併設完了）	一、二、国道一六五号バイパス計画にともない、藤原宮跡の調査
五、藤原宮跡より「郡評」論争にかかわる木簡出土	六、榎原神宮文華殿重要文化財指定
六、水差形土器重要文化財指定	一、一九七〇、奈良女子大・奈良国立文化財研究所による今井町町家調査
五、丸山古墳史跡指定	一、二、藤原宮跡の国営発掘調査開始
四、白檀南小学校創立	四、白檀中学校創立

一九七一 昭和四六

四、住居表示一部実施（八木・今井地区）
九、公民館・体育館落成

一〇、保健センター創立

一九七二 昭和四七

三、好川三郎市長辞任

三、森義己市長就任

四、老人医療無料化対象年齢を七五歳から七〇歳に引き下げ

四、心身障害児福祉年金制度実施

四、市内全域ゴミ無料収集実施

七、老人医療無料化対象年齢を七〇歳から六八歳に引き下げ

八、広報かしはら第一号発刊

一〇、橿原・高市広域市町村圏協議会発足

一九七三 昭和四八

四、心身障害者医療助成実施

四、橿原市土地開発公社設立

七、大久保町隣保館移転新築

一〇、乳幼児（〇歳・一歳）医療助成実施

一〇、老人医療無料化対象年齢を六八歳から六五歳に引き下げ

一九七四 昭和四九

一〇、休日応急診療所開所

一二、消防署北出張所開所

四、白檀南幼稚園創立

六、川西保育所開所

六、日高山保育所開所

五、旧米谷家・高木家・音村家・中橋家・豊田家・上田家を重要文化財に指定

四、耳成南小学校創立

四、奈良国立文化財研究所飛鳥・藤原宮跡発掘調査部発足

七、「畝傍保育所」を「大久保保育所」に改め新築開所

一一、畝傍北幼稚園移転新築

二、今井保育所開所

四、真菅北小学校創立

七、奈良国立文化財研究所、大官大寺を調査

九、鴨公小学校、同幼稚園移転新築

一九七五 昭和五〇

- 三、森義己市長辞任
- 四、三浦太郎市長就任

一九七六 昭和五一

- 六、心身障害児訓練施設「かしの木園」開園
- 一一、県都計審、藤原宮跡保存のため、国道一六五号バイパスの新ルートを決定
- 四、財団法人榎原市学校建設公社設立
- 一〇、市の木(樺)・花(くちなし)、市旗制定

一九七七 昭和五二

- 二、人口一〇万人をこえる(一日)
- 七、市の色制定(白色・緑色・茶褐色)

一九七八 昭和五三

- 一〇、母子家庭医療費助成実施
- 一一、分庁舎・保健センター落成
- 一二、老人福祉センター「千寿荘」落成
- 一二、ごみ焼却処理施設落成

九、畝傍中学校移転新築

四、八木中学校移転新築

四、真菅北幼稚園創立

一〇、奈良国立文化財研究所、和田廢寺跡を調査

三、新沢千塚古墳群史跡指定

四、畝傍東小学校創立

四、耳成南幼稚園創立

四、金橋保育所開所

五、河合家を重要文化財に指定

五、久米寺多宝塔重要文化財指定

四、白櫃北小学校創立

四、畝傍東幼稚園創立

五、藤原宮跡からわが国最古の人物像木簡が出土

一九八〇、歴史的環境保全市街地整備計画調査実施(今井町)

三、桜井市・榎原市組合立香山中学校を廃し、同学校の生徒を八木中学校へ編入

四、白櫃北幼稚園創立

一〇、藤原京朱雀大路跡史跡指定

一二、千塚資料館落成

一九七九	昭和五四	五、大久保児童館落成 五、白樫児童センター落成 一一、婦人会館「働く婦人の家」落成 一一、青少年会館「勤労青少年ホーム」落成 四、休日夜間応急診療所を設置 四、国道一六五号大和高田バイパス一部開通 七、サイクリングターミナル「千輪荘」落成 七、運動公園総合プール(レジャープール)完成 六、市庁舎改造落成 八、飛驒地区公共センター落成 一、近鉄百貨店本市出店に関し事前協定書に調印 四、八木浄水場拡張完成 四、心身障害児訓練施設「かしの木園」の温水プールと訓練室完成 六、運動公園総合プールに五〇メートル公認プールと二五メートルプール完成 七、近鉄八木駅北側整備完了 七、八、台風。曲川・川西・十市・西池尻等に被害でる 一一、香久山公民館落成 五、八木地区公民館落成 五、市公民館・市立体育館改修完成	四、耳成西小学校創立 五、入麿神社本殿重要文化財指定 三、今井幼稚園移転新築 四、耳成西幼稚園創立 九、光陽中学校移転新築
一九八〇	昭和五五		
一九八一	昭和五六		
一九八二	昭和五七		四、金橋保育所増築完成 六、梶原文化会館落成 一一、香久山小学校改修完成
一九八三	昭和五八		五、梶原中学校落成

一九八四 昭和五九

- 六、わかくさ国体リハーサル大会第三〇回全日本勤労者弓道選手権大会開催
- 八、わかくさ国体リハーサル大会第一三回女子全日本教員バスケットボール選手権大会開催
- 九、今井地区公民館落成
- 一一、わかくさ国体リハーサル大会第三七回全日本体操競技選手権大会兼ロサンゼルスオリンピック第一次予選会開催
- 一二、わかくさ国体リハーサル大会全国社会人サッカー選手権大会開催
- 一三、今井町並み保存に補助金制度創設
- 一四、中和幹線の一部開通
- 一五、福祉タクシー制度実施
- 一六、硬式野球国際親善試合開催
- 一八、国道一六五号榎原バイパス一部開通
- 一八、わかくさ国体五〇日前パレード実施
- 一八、国道二四号榎原バイパス一部開通
- 一九、ふるさと公園造成工事開始
- 一九、近鉄百貨店と土地賃貸借契約の調印
- 一〇、今井町環濠再現完成
- 一〇、第三九回国民体育大会「わかくさ国体」開催
- 一一、新沢地区公民館落成

三、県榎原公苑施設改修完成

<p>一九八五 昭和六〇</p>	<p>一一、飛驒老人憩の家、飛驒児童公園、日高山共同浴場落成 一二、耳成地区公民館落成 七、ゲートボール広場設置に補助金制度創設 九、畝傍地区公民館落成 一一、市行政改革大綱策定 一二、金橋地区公民館落成 一、本庁舎増築工事中 二、ふるさと公園市営火葬場建設着工 八、市制三〇周年記念式典挙行</p>
<p>一九八六 昭和六一</p>	

調査（執筆）委員

顧問

関西大学名誉教授（文博）

末永雅雄

大阪大学名誉教授（文博）

犬養孝

（上巻）歴史

古代

奈良教育大学名誉教授（文博）

池田源太

中世

関西学院大学名誉教授（文博）

永島福太郎

国立奈良工業高等専門学校教授

朝倉弘

奈良大学教授

松山宏

近世

天理大学教授

平井良朋

近代

奈良県立橿原高等学校長

廣吉壽彦

中部大学教授

小野恵美男

帝塚山短期大学講師

安彦勘吾

東大阪短期大学教授

木村博一

各 説

古代遺跡

奈良県立橿原考古学研究所副所長(文博)

石野博信

奈良県立橿原考古学研究所調査課長

泉森 峻

藤原京

文化庁文化財保護部記念物課主任調査官

狩野 久

奈良国立文化財研究所
平城宮跡発掘調査部研究員

井上 和人

奈良国立文化財研究所
飛鳥・藤原宮跡調査部長

岡田 英男

大阪市立大学教授(工博)

多胡 進

奈良国立文化財研究所
飛鳥・藤原宮跡発掘調査部研究員

清水 真一

奈良国立文化財研究所
平城宮跡発掘調査部遺構調査室長

上野 邦一

相愛女子短期大学専任講師

北谷 幸册

園田学園女子短期大学教授

吉原 栄徳

言 語

三重大学教授

鏡味 明克

皇学館大学教授(文博)

西宮 一民

(下卷) 地 理

愛知大学教授(理博)

藤田 佳久

京都市埋蔵文化財研究所員

丸川 義広

奈良女子大学助教授

千田 稔

四天王寺国際仏教大学専任講師

森島 允子

愛知大学地理学専攻研究生・
香川県教育委員会

大鹿 寿

愛知大学地理学専攻研究生

三好 津代司

岐阜県立図書館司書

村瀬 由香

茨木市立茨木中学校教諭

北村 修

三重県立三重高等学校教諭

原田 英一郎

愛知大学地理学教室

黒木 篤

奈良女子大学大学院地理学専攻生

関戸 明子

愛知大学地理学教室

市川 滋久

大阪府三岬町立三岬中学校教諭

岡辺 久

愛知大学地理学教室

南 栄治

愛知大学地理学専攻研究生

東方 伊佐司

各 説

神 社

元奈良文化女子短期大学教授

宮坂 敏和

寺院	奈良文化女子短期大学名誉教授	土井實
仏教美術	東京国立博物館資料部第一研究室長	田中義恭
動物	奈良文化女子短期大学教授(理博)	御勢久右衛門
	大宇陀町立大宇陀中学校教諭	今西塩一
	奈良県立吉野高等学校教諭	永岡義博
植物	奈良女子大学教授(理博)	菅沼孝之
	橿原市立畝傍東小学校教諭	辰巳博史
民俗	国立歴史民俗博物館教授	岩井宏實
	奈良県立農業大学校講師	栢木喜一
	大阪城南女子短期大学講師	野堀正雄
道標	大阪府立大和川高等学校教諭	米田藤博
地名	奈良大学講師(文博)	池田末則
	奈良芸術短期大学教授	木村芳一
	帝塚山短期大学講師	関口靖之
年表	奈良芸術短期大学講師	大矢良哲

編集代表者

池田源太

土井實

池田末則

写真提供

真福寺

正倉院事務所

奈良国立文化財研究所

橿原考古学研究所

天理図書館

本居宣長記念館

談山神社

大神神社

葛木神社

日本地名学研究所

飛鳥園

矢沢邑一

末永雅雄

中野文彦

藤井勘左右

吉岡洋子

奈良大学図書館

事務局

市長公室企画広報課